

# インクルーシブ社会の創造を実現する障害者現場職員のためのエンパワメント研修

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター  
〒231-0013 神奈川県横浜市中区住吉町2-17 金井ビル201号室

## 助成事業の概要

### 目的

地域作業所、就労支援事業所、相談支援事業所など、障害福祉現場のワーカーが、共生社会創造を見据えた実践力を持てるよう、身体論やアートの視点、ビジネスの知識や手法、事業プロデュースなどをテーマとした連続研修を行なう。障害者の工賃アップと生活の質の向上、地域の中での共生を推進するためにも、受講者が従来の障害福祉の枠組みにとらわれず、異分野の視点から事業を見直したり、多様な社会資源とのネットワークを持つなど、現場の課題を突破する方法を見出すことを目指す。

### プログラム

数歩先行く障害福祉「違うっておもしろい。障害への向き合い方を考える」

#### 【理論編 全2回】

##### ■第1回

日程：9月21日（水） 18：30～21：00

テーマ：「見えない」ことは欠落ではない

～障害に対する思考を変える～

講師：東京工業大学 リベラルアーツ研究教育  
院准教授 伊藤亜紗氏

##### ■第2回

日程：10月26日（水） 18：30～21：00

テーマ：誰もが「働く」ことが当たり前の社会へ

～障害の限界に挑む～

講師：文京学院大学客員教授 松為信雄氏  
社会福祉法人はらから福祉会  
理事長 武田元氏

#### 【実践編 2コース×2回】

##### ◆経営マネジメントコース

コース監修・アドバイザー：

中小企業診断士・当センター監事 為崎緑氏

##### ◇第1回

日程：1月16日（月）13時半～16時半

テーマ：見せる？見せない？プロモーションの極意

講師：(株)恋する豚研究所

代表取締役 飯田大輔氏

##### ◇第2回

日程：2月1日（水）13時半～16時半

テーマ：売上と報酬をどうつくるか？

講師：株式会社 アプリープランニング

武田裕之氏

社会福祉法人 共働舎 ファールニエ  
ンテ 萩原達也氏

##### ◆作業・労働プロデュースコース

コース監修・アドバイザー：

横浜市健康福祉局障害企画課 就労支援係長

江原顕氏

##### ◇第1回 1月19日（木）13時半～16時半

テーマ：どんな障害があっても受け入れるアート  
工房の実践

講師：社会福祉法人みぬま福祉会

工房集管理者 宮本恵美氏

##### ◇第2回 日程：1月30日（月）

テーマ：笑顔あふれる自然派菓子工房の実践

講師：社会福祉法人 湘南の凧 八重樫讓氏

株式会社 3・SUN・TREASURE

横田美宝子氏

## [番外編 1回]

モノが売れない時代、福祉の強みを活かしてどう勝負していくか。トレンドに敏感に、かつ独自性と社会的価値を発信するような魅力的なモノづくりに取り組むために、自主製品を流通のプロの視点から客観的に評価する。さらに、製造者と消費者の出会いの場ともなるような、自主製品品評会&展示・販売会を開催する。

3月28日（火）19:00～21:30

テーマ：フードプレゼンテーション

共生社会創造のための自主製品品評会  
～食品編～

講師&ゲスト審査員：

流通アナリスト・元コンビニバイヤー  
渡辺広明氏

(株)3・SUN・TREASURE

代表取締役 横田美宝子氏

## 事業の成果

本事業は当法人立ち上げの初年度から継続的に実施してきた「障害者と家族の地域生活支援」を目的としたプロジェクト事業のプログラムの一つである。プロジェクトでは現場職員の研修に加えて保護者サロン事業などを実施、障害者の生活の質の向上と家族や支援者のエンパワメントに力を注いできた。2015年には「理論編+実践編（コース制）」のオリジナルプログラムを確立。障害福祉分野の専門職に限らず、ソーシャルビジネス実践者、広告会社、デベロッパー、ギャラリー経営者などが参加し、本事業そのものが異業種、他職種間のイノベーション・ネットワークづくりにつながっている。2013年～2016年の受講者数は延べ322名、うち2016年度は142名であった。

身体論の研究者であり、「目の見えない人は世界をどう見ているのか」の著者でもある伊藤亜紗氏の講演から、プログラムをスタートした

ことは、今年度理論編の特徴の一つである。視覚障害者特有の身体の使い方、物の認識や表現方法などの研究から、障害に対するまったく新しい見方を提案し高評価を得た。

第2回は「障害者が働くことの意義」についての制度政策的な理解と実践上の考え方、方法論について解説を聞くだけでなく、講師を含む全員でディスカッションし、「障害者にも経済的自立が必要」との認識を共有した。

後段のプログラムとして1月から実践編を開始した。①経営マネジメント②作業・労働プロデュースの2コース、各2回計4回の実施であったが、横浜市健康福祉局の後援（名義）を得て、市内事業所をはじめとする現場職員が数多く参加した。

①と②両コースとも各回に業界をリードする実践者からの報告とテーマについてのディスカッションを行い、有効な情報やノウハウを共有。さらに各自が実現可能な方法論を現場に持ち帰ることができるよう、アドバイザーがコース全体を論理的にまとめ、理解を深めた。

番外編は全3回を予定していた理論編を諸般の事情から全2回としたことに対し、補完的に実施したが、座学研修というスタイルから離れて、本事業の目的を達成する新しい試みとなった。本年度実践編の受講者、過去の受講者をはじめとする自主製品を製造販売する5事業所が、商品プレゼンテーションを行い、会場の参加者とゲスト審査員が商品进行评估するというもの。今回は食品に限定しての品評会とし、参加者はプレゼンを聞くだけでなく試食したうえで、採点をおこなった。味・価格・デザイン・安全性・購買意欲の評価軸での審査結果は、事業所の商品開発のためのデータとして活用できるようフィードバックする。ゲスト審査員からは流通とフードビジネスなどの視点からの確かなアドバイスがなされ、エントリー事業所だけで

なく参加者にとっても新鮮な情報獲得と意識変革の機会となったことが、アンケート結果からもうかがえた。

## 成果の広報・公表

（予定していることを含む）

### ①法人WEBページ、フェイスブックページでの事業報告

研修報告は随時WEB、SNSなどにより発信しており、リーチ数は最大1938人となった。研修当日の報告だけでなく、企画調整段階においても打ち合わせの状況、講師に関連する情報などを発信することで、本事業の認知度が上がり、コンセプト・目的に共感する人の拡大、参加や協力につながっている。

### ②アニュアルレポートでの成果報告

アニュアルレポートは法人の事業報告として毎年5月～6月に発行。28年度は例年よりページ配分を増やし、参加者の声やアンケート結果を含む本事業の実績について掲載する。

### ③横浜市健康福祉局への報告

実践編、番外編の後援である横浜市に対し、収支状況を含む事業報告をおこなう。

## 今後の展開

### ①理論編の継続実施

2017年度は神奈川県立かながわ労働プラザとの協働による開催を計画しており、差別解消法の遵守といった目的だけでなく、一般企業の中で障害者雇用をどのようにとらえ、マネジメントを行っていくかなどを理解する講座を実施する予定。

### ②大学との協働

本事業参加者でもある相模女子大学の教員と

学生からの発案により、障害福祉事業所の製品を魅力的に紹介するようなツールを作成する予定。

### ③フードプレゼンテーションをベースにしたイベントの継続

事業所の商品開発・営業力などの向上とエンパワメントにつながる本プログラムのコンテンツを一定の型として、今後応用化、ブラッシュアップしていく。また、現場とは縁遠い人であっても商品を介して障害者を理解し、商品のファンとして購入することにより、結果的には彼らの生活を支えるという好循環の仕組みを形成する一助としていく。

### ④調査研究

③の根拠となるような実態調査、経営学的な分析と手法の検討などを行い、今後のプログラムに反映させていく。